

# モビリティ・マネジメントの手順

## 目的の明確化

例えば、自動車交通の削減や公共交通の利用促進など

## 対象の明確化

ターゲットは誰で、どのような交通行動を対象とするか、を明確にします

## 手法の選定

目的にあわせて、手法を選定します  
アンケート調査、ホームページ等

## モビリティ・マネジメントの実施

## 効果測定

アンケートによる意識や交通行動の変化の測定

ここでは、モビリティ・マネジメントの具体的な手順と内容を紹介します。

川西猪名川地域では、平成15年度に地域住民のみなさまを対象に、郵送配布・郵送回収により、アンケートによるモビリティ・マネジメントを実施しました。その中心となるフローは以下のとおりです。

### 事前アンケート

交通行動（クルマや公共交通の利用回数・頻度等）・環境やクルマ利用についての意識等についてアンケートを行います。

効果測定のために、事前アンケートとほぼ同様に交通行動・環境やクルマ利用の意識等について調査し、その変化を測定します。  
※長期効果確認のため、2回以上実施する場合があります。

### 事後アンケート

事前・事後アンケートの例

質問4 6月15日(日)～17日(火)の3日間、左の欄の交通手段を、それぞれ何回使いましたか？  
この質問4は、できるだけ、それぞれの日の夜にご記入ください。  
注：「0回」のところは空欄で結構です

			15日(日)	16日(月)	17日(火)
マイカー(運転)	15分未満 乗った		0	0	0
	15～45分 乗った		0	0	0
	45分以上 乗った		0	0	0
マイカー(同乗)	15分未満 乗った		0	0	0
	15～45分 乗った		0	0	0
	45分以上 乗った		0	0	0

4) 「できるだけ、クルマ利用を控えよう」と努力していますか？	全然、努力していない	どちらとも思えない	とても、努力している
5) 「クルマでの移動」は、社会とどうて、よくないと思いますか？	全然、悪くない	どちらとも思えない	全く、そう思う
6) 「公共交通での移動」は快適だと思いますか？	全然、不快	どちらとも思えない	とても、快適
7) 日常生活に「クルマ」は必要だと思いますか？	全然、悪くない	どちらとも思えない	全く、そう思う
8) 「できるだけ、クルマ利用を控えるための工夫」をしていますか？	全然、していない	どちらとも思えない	とても、よくしている
9) 「クルマでの移動」は、よくない行かだ、と思いますか？	全然、悪くない	どちらとも思えない	全く、そう思う

環境やクルマ利用の意識

交通行動に伴う「CO<sub>2</sub>排出量」や「消費カロリー」等をフィードバック

### 兵庫 一郎 さんの交通診断カルテ

ステップ1 あなたがお答えになった「3日間の移動のデータ」です。

交通機関	あなたの回答	3日間の計算結果		
		6/15	6/16	6/17
マイカー(運転)	15分未満 15～45分 45分以上	3	2	5
路線バス				
電車	2		2	1.6
その他(飛行機、船など)				

ステップ2 あなたのお答えに基づいて計算した、3日間のCO<sub>2</sub>排出量とカロリー消費量です。

ステップ3 つまみ、あなたの3日間の結果をまとめると...

あなたのCO<sub>2</sub>排出量は...

全体で、	13.9 kg
うち、クルマから	11.7 kg (84.2%)

あなたのカロリー消費量は...

全体の総量で、	712 kcal
うち、クルマ利用中、	274 kcal (38.5%)

ステップ4 もしも「クルマ」の代わりに自転車や電車を使えば、健康にも、環境にもよくなります。例えば...

クルマ利用の30%を自転車に置き換えると、一日あたり、CO<sub>2</sub>排出量は、2.7kg 減り、カロリー消費量は、33kcal 増えます。

## コミュニケーションアンケート

事前アンケートのひとりひとりの回答をもとに、情報のフィードバックと公共交通利用に関する情報提供等を行います。

また、クルマの利用時間の削減目標とそれのための行動プランなど行動計画を書いてもらいます。

公共交通の「路線図」や「ダイヤ」等についての情報を提供

### おてかけMAP

バス利用のメリット～「通勤・通学」～

おてかけMAPは、地域の公共交通機関の路線図やダイヤを掲載し、利用者の利便性を高めるためのツールです。

公共交通利用に関する情報

この事例では、TFP (Travel Feedback Program) と呼ばれる、代表的なMM施策を採用しています。TFPとは、事実情報提供法やフィードバック法、行動プラン法等の技術を組み合わせ、ひとりひとりや世帯ごとに個別にコミュニケーションを図る方法です。複数回の接触と双方向の情報のやりとりで構成されるケースが標準的です。

モビリティ・マネジメントはコミュニケーションが基本となる施策ですが、必ずうまくいく決まった手順はありません。企画段階から、学識経験者やモビリティ・マネジメントの業務経験者に相談することが重要です。

### 参考図書

- モビリティ・マネジメントの手引き (社団法人 土木学会、H17)
- モビリティ・マネジメント実務の手引き (兵庫県、H18)